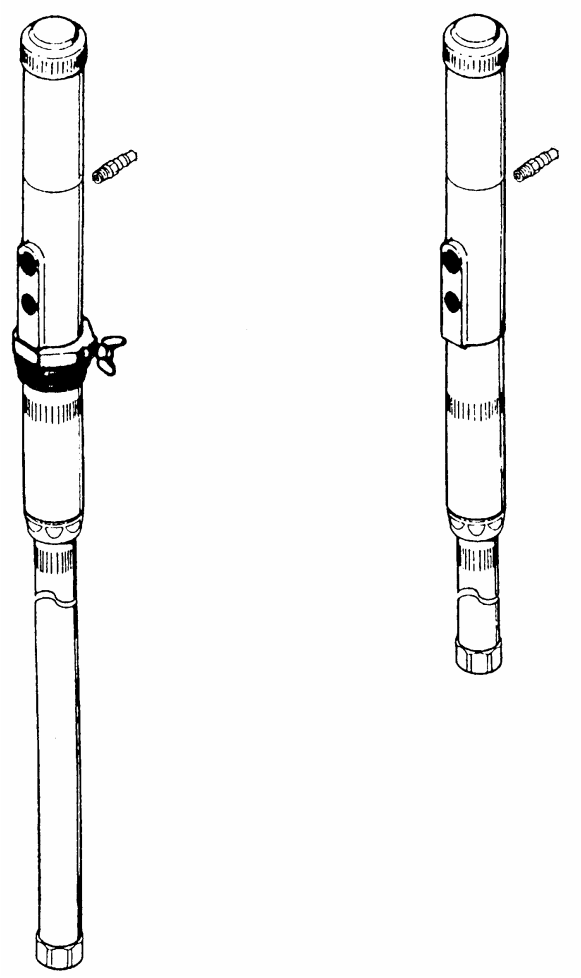
Doc. No.	900410-08

yamada

取 扱 説 明 書

オイルポンプ

MODEL No. 852633 DR-50A3 ドラムタイプ　3×1
852634 SH-50A3 サイホンタイプ 3×1



⚠警　告
安全のため、本製品のご使用の前には必ずこの取扱説明書を熟読し、記載されている重要警告事項をよく理解してください。 お読みになった後は、本取扱説明書をいつでも使用できるよう大切に保管してください。

YAMADA CORPORATION

はじめに

このたびは、弊社製品をご購入頂き、誠にありがとうございます。この取扱説明書には、ご購入頂いた製品を安全且つ快適にお使い頂くための方法が記載されております。使用なさる前に、良くお読みになり、内容を理解したうえで使用してください。
なお、ご使用中にご不明の点、不具合などがありましたら、お買い上げの販売店、または、弊社各営業所までご連絡ください。
★　取扱説明書、注意ラベル等を汚損、紛失した場合には、速やかにお買い上げの販売店からご購入いただき保管・貼付してください。

目　次

1. 使用目的 ····· 1
2. 警告・注意事項 ····· 2
3. 使用上の注意 ····· 2
4. 各部の名称 ····· 3
5. 取付方法 ····· 4
6. エア接続 ····· 5
7. 運転 ····· 6
8. 故障とその対策 ····· 7
9. 保守・点検 ····· 7
10. 分解・組立 ····· 8
11. 分解図・パーツリスト ····· 10
12. パフォーマンスカーブ ····· 11
13. スペック ····· 11
14. アクセサリ ····· 12
15. 製品保証登録 FAX シート ····· 13
16. 保証規定 ····· 裏表紙

1. 使用目的

本機は、コンプレッサーの圧縮エアを駆動源として運転する、主にドラム缶、又は他容器から潤滑油を汲出したり、移送する用途のポンプです。
本機の接液部の材質にはアルミ合金、鉄、及びシール部分は主にニトリルゴムを使用しています。これら材質を侵す各種溶剤は使用できません。

2. 警告・注意事項

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。
本書では、警告および注意事項を絵によって表示しています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき操作を行う方や周囲にいる方々に加えられる恐れのある人身事故や、周囲にある物品への損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよくご理解いただくようによくお読みください。

⚠ 警告： この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。

⚠ 注意： この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容を示すために、上記の表示とともに以下の絵表示を使用しています。

この表示は、してはいけない行為（禁止事項）であることをあらわしています。表示の脇には具体的な禁止内容が示されています。

この表示は、必ずしたがっていただく内容であることをあらわしています。表示の脇には具体的な指示内容が示されています。

3. 使用上の注意

下記の警告・注意事項は大変重要ですので、必ず守ってください。

⚠警告

本機は、接液部はアルミ合、金鉄、及びシール部は主に NBR を使用しています。これらを侵す溶剤、薬品は使用できません。もし、使用した場合、腐食などによる液漏れによって人体、物的損害をおよぼす恐れが想定されます。

使用するオイルの種類によっては、皮膚等に炎症をおこす危険があります。
オイルメーカの取扱注意事項を良く熟読し、注意して取扱ってください。

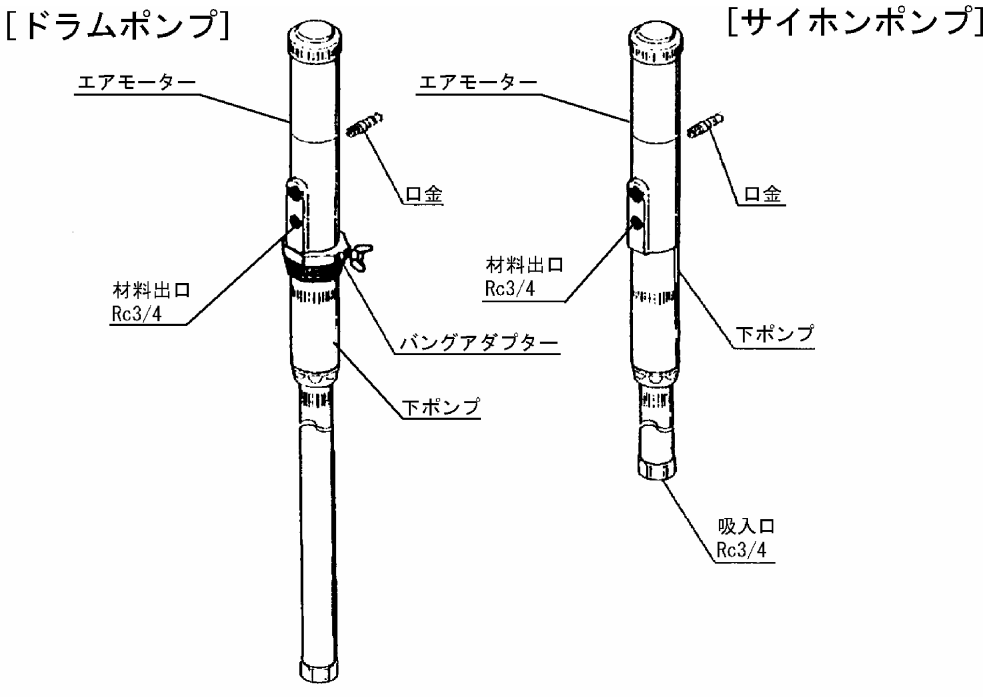
本機は、ガソリン、灯油、その他薬品・溶剤等には使用できません。
また、ガソリンは高揮発性の燃料です。ポンプの洗浄などには絶対に使用しないでください。

取扱う潤滑油は、地面等に直接排出しないでください。有害物質等の処分は適用される法規に従ってください。

⚠注意
本機の最高供給エア圧力は、0.7MPa です。 これ以上の圧力での使用は、ポンプが破損したり、ホース、バルブ、ガンなどが破損しケガをすることが想定されます。
作業終了後、又は長時間使用しない場合は、必ずエアを切って、ポンプへのエアの供給を止めると共に、ガン等のバルブを開いてポンプ内の内圧を抜いてください。 エアを遮断しないために、ホースの破損、バルブ・ガンの漏れにより施設などを汚染させる等、二次災害に関しては使用者側の責任となります。

NOTE: ポンプの空運転は、ポンプの寿命に悪影響を及ぼしますので、極力さけてください。

4. 各部の名称



5. 取付方法

［ドラムポンプの場合］

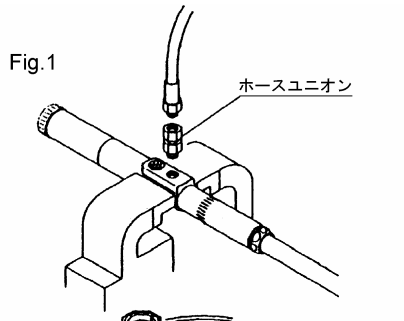
5-1. 梱包を開いてポンプを取出してください。

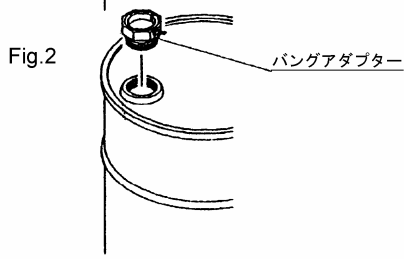
5-2. ポンプをバイスに固定して吐出口にあらかじめ用意した材料ホースを接続してください。この時、ポンプ・ホースの間にホースユニオンを購入して取付けることをお勧めします。(Fig.1)

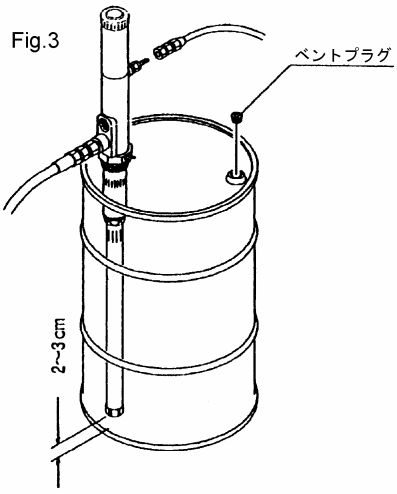
5-3. ドラム缶の注入口（2B）のプラグを外しポンプに接続しているバングアダプターをねじ込んでください。(Fig.2)

5-4. バングアダプターにポンプを差込み、ポンプの下端（アダプター）がドラム缶の底に当ったら、2~3cm ポンプを持ち上げてドラム缶底とアダプターとの間に隙間をとってください。
位置が決まりましたら、バングアダプターの蝶ネジを締めてポンプを固定してください。(Fig.3)

NOTE: 樹脂タイプのドラム缶にも対応できます。バングアダプターの上部のネジをドラム缶にねじ込んでください。







⚠ 注意

ドラム缶等天蓋付容器を使用する際は、容器内が真空状態にならない様に、必ずベントプラグを緩めてください。

［サイホンタイプの場合］

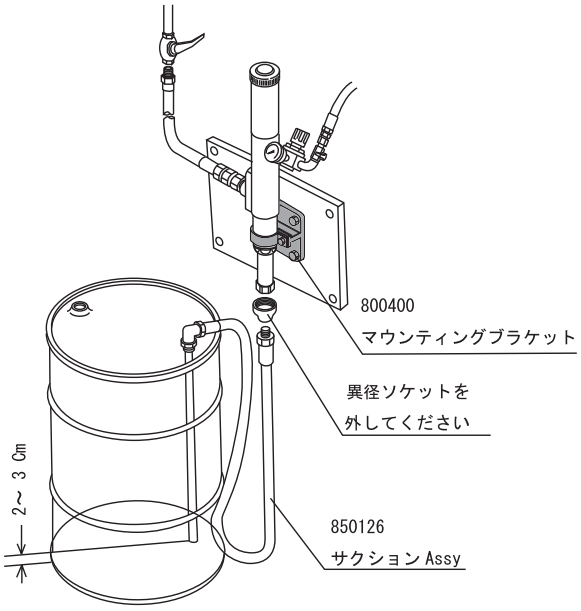
5-5. マウンティングブラケット（別売：製品番号 800400）のポンプ固定用バンドのボルトをゆるめバンドを取外してください。(Fig.4)

5-6. ポンプをブラケットにセットし、ポンプ固定用バンドで支え、付属のボルトで固定してください。この際、ポンプが回らない程度（ボルト締付けトルク 1.2N･m 以下）にボルトを締めてください。締めすぎるとサクションチューブ内のプランジャーが動かなくなります。

5-7. ポンプ吸入口にサクション Assy（別売：製品番号 850126）のホース入口の異径ソケットを外し R3/4 ネジをポンプサクションチューブ部に接続してください。
この時、ホースオスネジに市販のシールテープを巻いてねじ込んでください。

5-8. サクション Assy に付属するバングアダプターをドラム缶（2B）のプラグを外しねじ込み、サクションチューブを挿入してください。

5-9. 5-4 項と同じ様にドラム缶底とサクションチューブ吸入口の間隔を調整してください。(Fig.4)



NOTE: 材料ホースは、耐圧 3MPa 以上で、耐油性のあるホースをご使用ください。

据付け上の注意事項: ポンプ運転時振動により配管をいためること、騒音の元凶になること、ドラムポンプにおいてはドラム缶の交換が不可能になること、ポンプのメンテナンスが出来ないことなどの問題がありますので、配管する場合は、ポンプと直接配管で接続しないでください。(Fig.5)

★必ずポンプと配管の間はフレキシブルなホースで接続してください。

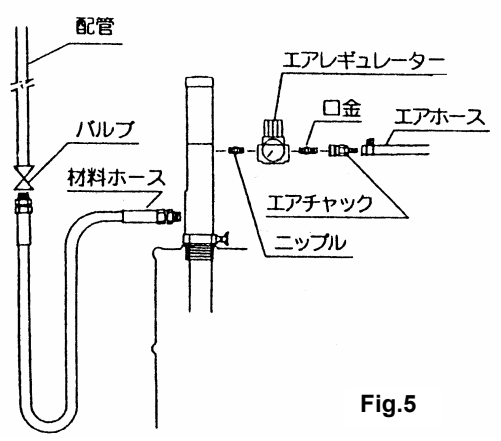


Fig.5

6. エア接続

1) ポンプのエア供給口にエアレギュレーター（別途購入）を取付けてください。
標準品として専用のエアレギュレーターを用意しておりますので別途ご購入ください。(Fig.5)
2) エア配管からエアホースを接続しエアレギュレーターを介しポンプ IN 側に接続してください。

⚠ 注意
ポンプを安全に、さらに長寿命使用していただくため、エア供給口には必ずエアレギュレーターを取付けてください。 （エアレギュレーターは、減圧弁と圧力計によって構成されています。）

NOTE:

- エアホースにエアが供給されていますと、接続した瞬間、ポンプが作動してしまいます。エアホースをポンプに接続する前に、必ずエアレギュレーターのツマミを左（反時計方向）に廻し、圧力計を見て圧力計の指針を“0”に戻してください。
- エアレギュレーターの使用は、ポンプへの供給エア圧力を調整することができ、ポンプの無駄な動きを少なくすることが出来ます。そのことにより作業性が良くなり、ポンプの寿命が長くなります。
エア圧力調整方法は、ツマミを右に廻すと加圧され、左に廻すと減圧されます。
通常の使用では圧力計の指針が 0.3~0.5MPa の間を指している状態が適正です。

⚠ 注意
供給エア圧力は 0.7MPa 以下でご使用ください。絶対に 0.7MPa 以上では使用しないでください。元圧が 0.7MPa 以上ある場合は、必ずエアレギュレーター（別売）を使用し、指示通りの圧力に調整してください。
作業終了後、又は夜間・休日等、長時間使用しない場合は、必ず本機への供給エアを切り、吐出口バルブを開き、ポンプ・ホース内の圧力を抜いてください。 エアを切らないためにホースの損傷、バルブ等のリークによって施設等を汚染させるなどの二次災害については、使用者側の責任になります。

NOTE:

- 圧送できる距離は、オイルの粘度・温度・必要吐出量等によって異なります。詳細は弊社営業所までお問い合わせください。

- ドラム缶内のオイルが無くなりますと、ポンプは空打ちし、作動が速くなり、ポンプの寿命に悪い影響を与えます。直ちにポンプを止め、新しいドラム缶と交換してください。
  ドラム缶の交換は、4 頁＜取付方法＞の項を参照ください。

7. 運転

1) エアレギュレーターのツマミを右（時計方向）に廻し、ポンプ内にエアを供給してください。供給エア圧が 0.2MPa にてポンプは作動します。
2) エアを供給するとポンプはしばらく作動し、ホース・ガン内にオイルを満たして停止します。
3) オイルの吐出は、材料ホース先端のガンレバー操作にて行います。レバーを引くとバルブが開き、ポンプが自動的に作動しオイルを吐出、レバーを戻すとバルブが閉じ、吐出が停止され同時にポンプも止まります。
4) 使用用途に合わせて供給エア圧を調整してください。
   通常は、0.3~0.5MPa の供給エア圧で使用してください。
   特に、オイル圧送用として使用される場合は、配管距離によって吐出量が異なります。希望の吐出量になるまで供給エア圧力（最大 0.7MPa）の調整を行ってください。

NOTE:
長時間作動が止まらない場合は、ホース・配管・ガン等の接続部のゆるみによる漏れの発生、又は、下ポンプ内部のピストンパッキン及びバルブシートの摩耗などにより空打ちが想定されます。エアの供給を停止し、点検してください。

8. 故障とその対策

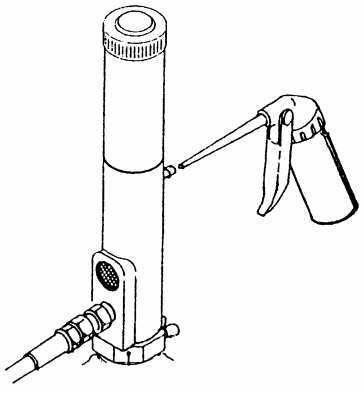
状　況	点　検　内　容	対　策
ポンプが作動しない	・エアが正常に供給されているか →	圧力チェック (0.3~0.7MPa)
	・配管途中にあるバルブが閉っていないか	
	↓	
	（ポンプ側出口の材料ホースを外して作動させる）	
	→作動する場合は、材料ホース・配管・ガンのつまりか、又は作動圧が低い	
	→作動しなければ、ポンプの故障	
	↓	
	（材料ポンプを分離し、エアモーターのみで作動させる）	
	→動けば、下ポンプの故障 →	サービスを依頼
	→動かなければ、エアモーターの故障 →	サービスを依頼
ポンプが止まらない	・出口バルブ（ガン）に漏れが無いか	
	・配管・材料ホース等の継目に漏れが無いか	
	・ドラム缶のオイルが空になっていないか →	補充、又は交換
	↓	
	→下ポンプの故障 →	サービスを依頼
ポンプは作動するがオイルが出ない	・ドラム缶のオイルが空になっていないか →	補充、又は交換
	↓	
	→下ポンプの故障 →	サービスを依頼
ポンプは作動するが圧力・流量が不足	・供給エアが低下していないか	圧力調整（最大 0.7MPa）
	→下ポンプの故障 →	サービスを依頼
	（バルブ・シート面の摩耗、ゴミのつまり）	

9. 保守・点検

9-1. 注油

ポンプのルブリケーションのため、10 日に一回程度潤滑油注入を行ってください。
潤滑油の注入は以下のように行います。

1) エアレギュレーターを取外してください。
2) エア供給口に、右の図のように潤滑油を数滴（約 5mL）注入してください。
   潤滑油は、タービン油 1 種 ISO (VG-32) 又は相当を使用してください。



9-2. 消耗部品

ポンプのパッキン類は、使用頻度に応じて摩耗します。
定期的に点検・交換してください。

10. 分解・組立

1) ポンプの作動が不良・停止の状態になった場合は、不用意にポンプを分解せずに 7 頁の＜故障とその対策＞の項を参照して、その状況をよく判断して必要以外の個所まで分解しないでください。

2) エアモーターは、直接材料に触れることがなく故障は極めて少ないため、分解の必要はありません。万一、分解の必要が生じた場合は、弊社サービス店にご依頼ください。

⚠注意

ガソリンは高揮発性の燃料です。ポンプの洗浄などには絶対に使用しないでください。使用環境によっては引火・爆発の恐れがあります。

人身事故を防止するため、ポンプの分解・点検等修理を行う前には、必ず供給エアを止めて出口バルブを開き、ポンプ内の圧力を抜いてから行ってください。
エアを入れたまま行いますと、誤作動によりケガをする恐れがあります。

部品を洗浄する際、アルミ、スチール等を腐食するような溶剤を使用しないでください。

＜エアモーターと下ポンプの分解＞

1) ポンプよりエアの接続を外し、ポンプに供給しているエアを切りポンプ内の圧力を抜いてください。

2) エアホースを取外してください。

3) 配管接続されている場合は、配管と材料ホースの間のメンテナンス用バルブを締めてオイルが逆流しないようにして材料ホースを外してください。
ポンプをドラム缶より抜き出し、ポンプ内のオイルを抜いてください。
オイルは、ポンプを逆様にし、排気口に掛からないよう注意しながら、吐出口より抜いてください。又、アダプター部のプレート部分をドライバ等で中へ押し開き、残りのオイルを抜いてください。(Fig.6)

Fig. 6

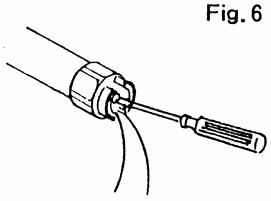
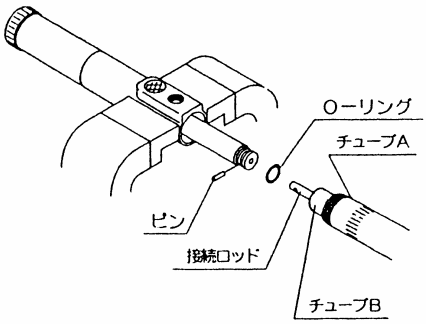


Fig. 7



4) ポンプ本体をバイスに固定してください。

NOTE: アルミ合金のシリンダは傷が付きやすいので、必ず本体をバイスに固定してください。

5) チューブ A のローレット部にパイプレンチをかけて、チューブ A をネジ戻し本体より外してください。(Fig.7)

6) プランジャー部の O-リングを外し、ピンを抜き取り、下ポンプとエアモーターを分離してください。

＜下ポンプの分解＞

1) 下ポンプを取出しましたら、アダプターの六角部をバイスにより固定し、チューブ A をパイプレンチにより取外してください。

2) 接続ロッドを引き抜いてください。(Fig.8)

3) アダプターの中のブッシュを手で抜き取り、その奥にあるパッキンを取出し、摩耗、傷がないか洗浄して確認してください。(Fig.9)

4) 取外した接続ロッドの二方取りとナットにスパナを掛けて取外しパッキンを洗浄し摩耗、傷がないか確認してください。(Fig.10)
摩耗などがあれば、新品と交換してください。
（交換する際、パッキンはリップの開いた端の部分が上向きです。確認し、間違わないようにしてください。）
(Fig.11)

5) サクションチューブよりアダプターを外し、よく洗浄しゴミ等が付着しないよう確認してください。

6) バルブとプレートの当たり具合を点検し、不具合があれば交換してください。(Fig.12)

NOTE:
エアモーター部は、組立の際の調整が難しいため、エアモーターの故障と判断した場合は、お買い上げの販売店、又は弊社営業所に修理を依頼してください。

Fig. 8

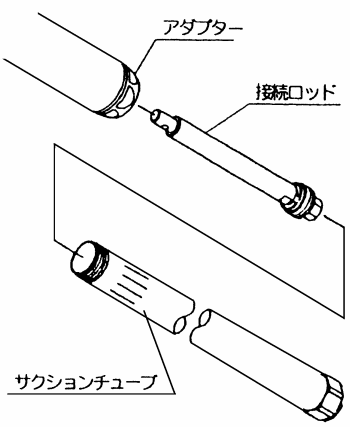


Fig. 9

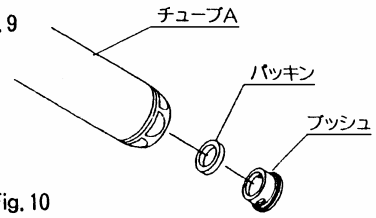


Fig. 10

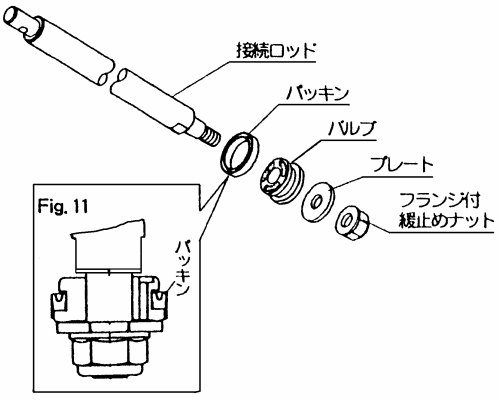


Fig. 11

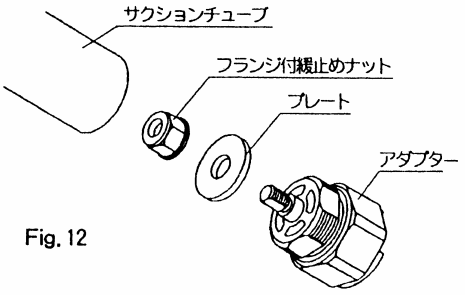
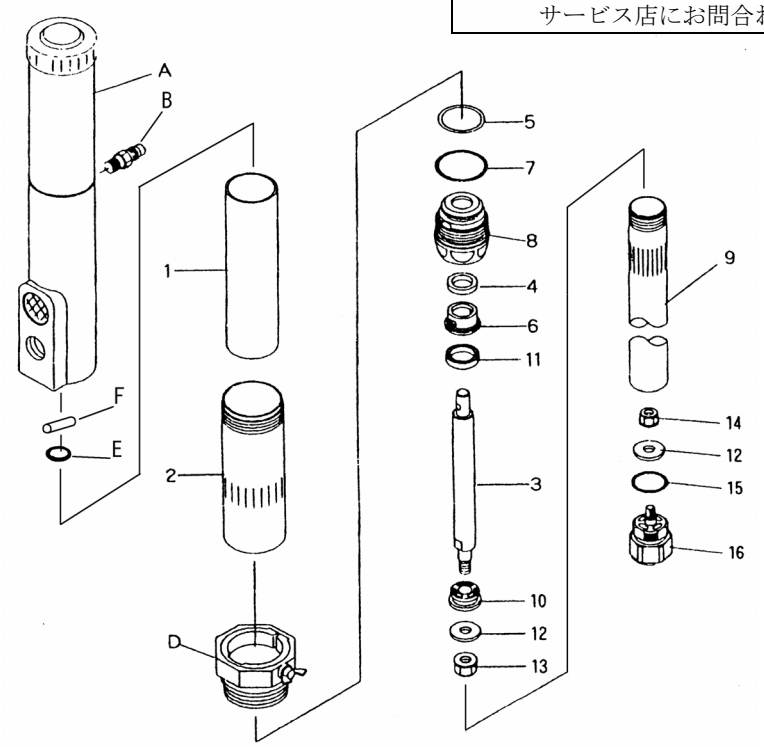


Fig. 12

11. 分解図・パーツリスト

852633 (DR-50A3)
852634 (SH-50A3)

注意：エアモーター側のシールパッキンは約 160 万サイクル（ドラム缶 1000 本分）で摩耗のためオーバーホールの必要があります。
サービス店にお問合わせください。

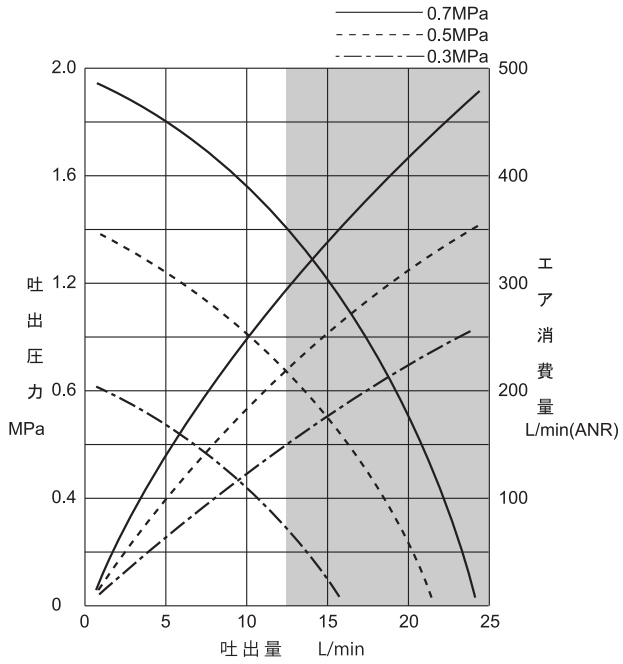


	852633 (DR-50A3)	852634 (SH-50A3)		
Ref.No.	**部 品 番 号**	**部 品 番 号**	**部 品 名 称**	**員 数**
A	803493	←	エアモーター	1
B	680743	←	口金	1
D	803488	―――	バングアダプター	1
E	640021	←	O-リング	1
F	632581	←	ピン	1
1	712948	←	チューブ B	1
2	712935	←	チューブ A	1
3	712972	711231	接続ロッド	1
4	772002	←	パッキン	1
5	640032	←	O-リング	1
6	771527	←	ブッシュ	1
7	640041	←	O-リング	1
8	713064	←	アダプター	1
9	713065	711237	サクションチューブ	1
10	780131	←	バルブ	1
11	683111	←	パッキン	1
12	711235	←	プレート	2
13	683270	←	フランジ付緩止メナット	1
14	683044	←	フランジ付緩止メナット	1
15	685135	←	O-リング	1
16	713066	←	アダプター	1

12. パフォーマンスカーブ

- 各曲線に記してあります圧力は供給エア圧を表しております。
- 吐出圧力－吐出量曲線は左上がり
- エア消費量－吐出量曲線は右上がり

の曲線をご覧ください。



13. スペック

型式		DR-50A3	SH-50A3
製品番号		852633	852634
ポンプレシオ		2.9：1	
材料接続	吸入口	Rc 3/4	
	吐出口	Rc 3/4	
エア接続	エア入口	Rc 1/4	
使用範囲	供給エア圧力	0.3~0.7MPa	
騒音 dB(A)	0.3~0.7MPa	（最小）66~（最大）79	
使用温度範囲		0~80℃	
吐出量／サイクル		58mL	
吐出量 出口側開放	供給エア圧力 0.3~0.7MPa	15~24 L/min	
エア消費量		180~470 L/min (ANR)	
外観寸法	全長	1,270mm	680mm
	首下	910mm	320mm
質量	ポンプ単体	5.4kg	3.3kg
	付属品付	5.7kg	3.5kg
※300 万ストローク保証、使用条件	供給エア圧力	0.5MPa	
	サイクル数	120/min	
付属品		803488 バングアダプター	――――
		680743 口金 (PS20-PM)	

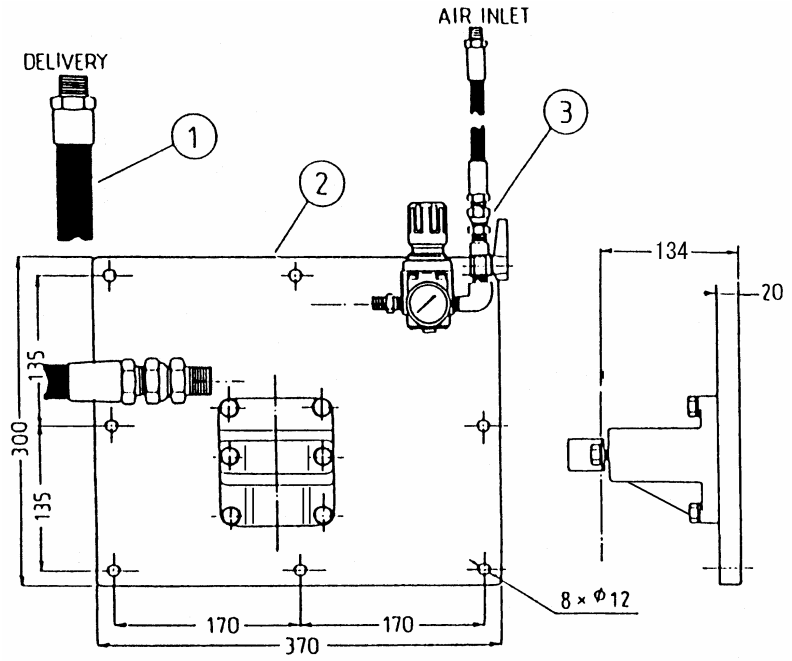
※消耗部品除く

使用基準：（実測値）使用オイル：昭和シェル（ビトリアオイル＃32）

気温：常温 20℃　油温：20℃による。

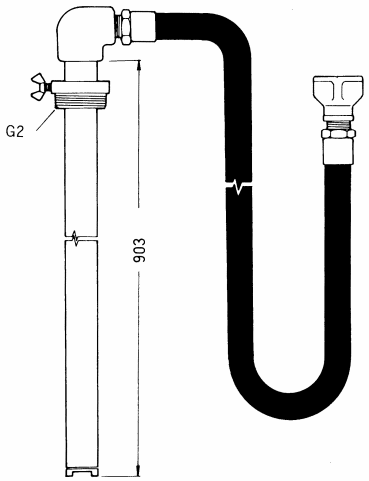
14. アクセサリ（852634　SH-50A3 用）

851837 パネルユニット　（構成及び取付寸法）

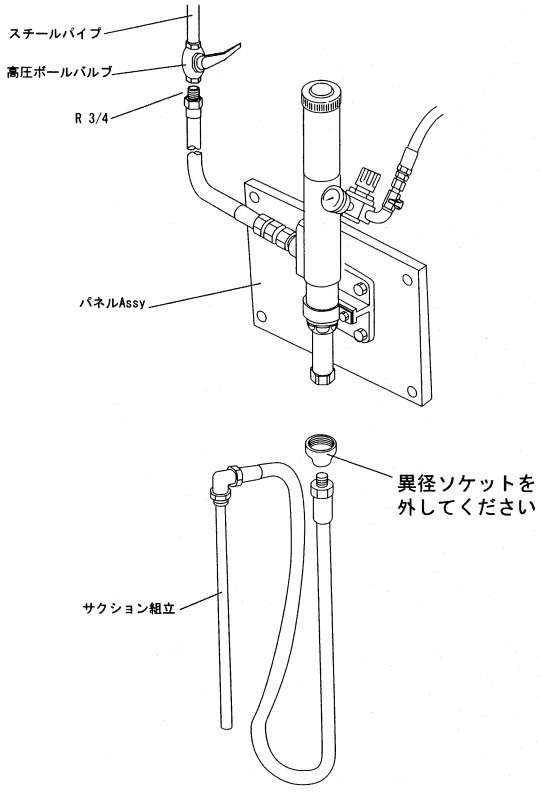


REF No.	部品番号	部品名称	員数
1	801102	デリバリーホース組立	1
2	802557	パネル組立	1
3	802558	減圧弁組立	1

850126 サクションチューブ・ホース



＜設置要領＞



15. 製品保証登録ＦＡＸシート

お手数ですが、下記のＦＡＸシートをコピーして必要事項をご記入の上、弊社宛てにご送信ください。
（フリガナ指定の箇所は、必ずご記入ください。）

製品保証登録ＦＡＸシート

フリガナ 貴社名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	フリガナ ご担当者名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
フリガナ ご住所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	 ご所属 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ご連絡先 Ｔｅｌ．（　　）＿＿＿＿－＿＿＿＿＿＿ Ｆａｘ．（　　）＿＿＿＿－＿＿＿＿＿＿

■貴社の業種を下記より選んで〇で囲んでください。

1. ガソリンスタンド	2. 自動車整備業	3. 自動車部品製造
4. 車両・造船業	5. 製鉄業	6. 機械加工業
7. 機械製造業	8. 電気機械器具製造	9. 半導体製造業
10. 化学・プラント	11. 建築・土木	12. 塗料・インキ製造業
13. 薬品・樹脂	14. 食品製造業	15. 塗装業
16. 鉄道・バス・運輸業	17. 窯業・陶器製造	18. 印刷産業
19. 鋳造業	20. 石油産業	21. 電気部品製造
22. 軽金属・非鉄	23. 織物・家具	24. バルブ

25. その他（詳しくご記入ください。＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■本機をお知りになったきっかけを〇で囲んでください。

新聞	1. 日刊工業新聞	2. 日本工業新聞		3. 日経産業新聞
	4. 日刊自動車新聞	5. 燃料油脂新聞		6. その他の新聞
雑誌	7. IEN	8. 化学装置	9. IPG	10. その他の雑誌
	11. 販売員に薦められて	12. 展示会		13. カタログで

ご購入年月日	＿＿＿＿ 年 ＿＿＿ 月 ＿＿＿ 日	ご購入目的 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ご購入販売店		ご使用条件 1. 取扱材料（液剤） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 2. 流量（吐出量） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
製品名（型式）		
製品番号		
SERIAL. No.		3. 吐出圧力 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
LOT. No.		

宛先
株式会社 ヤマダコーポレーション
営業部　製品保証登録係
TEL.０３－３７７７－４１０１
FAX.０３－３７７７－３３２８

MEMO.

お 願 い

この度は、弊社製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。
弊社では、お納めした製品のアフターサービス徹底のため「ご愛用者登録」による保証制度を採用しております。お手数をおかけいたしますが、添付の「製品保証登録 FAX シート」に必要事項をご記入の上、弊社宛にご送信ください。弊社にて受信後、下記記載の保証を履行させていただきます。
尚、ご送信がない場合には、保証期間中でも保証の対象となりませんので必ずご送信ください。
又、本制度は日本国内においてのみ有効です。

16. 保証規定

1. 保証期間：製品を納入申し上げた日より起算して 12 ヶ月間といたします。
2. 保証内容：保証期間中に、本機を構成する純正部品の材料、もしくは製造上の欠陥が表われ、弊社がこれを認めた場合、修復費用は全額負担いたします。
3. 適用除外：保証期間中であっても、下記の場合には適用いたしません。
   (1) 純正部品以外の部品を使用された場合に発生した故障。
   (2) 使用・取扱上の過失による故障、保管・保安上の手入れ不充分が原因による故障。
   (3) 製品の構成部品を腐食・膨潤、または溶解する様な液剤を使用されて生じた故障。
   (4) 弊社、又は弊社の販売店・指定サービス店以外の手によって分解修理がなされた場合。
   (5) 製品に弊社以外の手によって改造・変更が加えられ、これが原因で発生した故障。
   (6) パッキン、O-リング、ボール、バルブシートなどの消耗品の磨耗。
   (7) お買上げ後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷。
   (8) 火災、地震、水害、及びその他天災、地変などの不可抗力による故障及び損傷。
   (9) 不純物や過度のドレンが混入した圧縮エアを動力として使用したり、指定の圧縮エア以外の気体・液体を動力として使用した場合に発生した故障。
   (10) 定格値を超える電源にて使用された事により発生した故障及び損傷。
   (11) 過度に磨耗性を有する材料や、本機に不適当な油脂を使用された場合の故障。
   (12) 日本国外においてご使用の場合。
   尚、本製品及びその付属品に使用されているゴム部品等、あらゆる自然損耗する部品、消耗部品ならびに下記商品については、保証の適用から除外させていただきます。
   ・ホース類　・各種パッキン類　・コード類
4. 補修用部品：補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後 5 年とさせていただきます。
   製造打ち切り後 5 年を経過したものにつきましては、供給いたしかねる場合もございますので、何卒ご了承ください。

型　　式	
製 造 番 号	

ご購入年月日	
ご購入の販売店	

⚠ 安全に関するご注意 ／ ご使用の前に、取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。
また、性能・寸法など改良のため予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
製品に対するお問い合わせは、下記営業所にお願い致します。

株式会社ヤマダコーポレーション

本社・営業部　〒143-8504 東京都大田区南馬込 1 丁目 1 番 3 号　TEL(03)3777-4101(代)　FAX(03)3777-3328
札幌営業所　〒062-0002 札幌市豊平区美園二条 6 丁目 3 番 16 号　TEL(011)821-0630(代)　FAX(011)821-0949
仙台営業所　〒983-0034 仙台市宮城野区扇町 2 丁目 2 番 44 号　TEL(022)232-4743(代)　FAX(022)232-4756
東京営業所　〒143-0025 東京都大田区南馬込 1 丁目 1 番 3 号　TEL(03)3777-3171(代)　FAX(03)3777-6770
名古屋営業所　〒463-0052 名古屋市守山区小幡宮ノ腰 7 番 38 号　TEL(052)795-0222(代)　FAX(052)795-0444
大阪営業所　〒537-0025 大阪市東成区中道 3 丁目 15 番 2 号　TEL(06)6971-5301(代)　FAX(06)6974-0497
広島営業所　〒733-0833 広島市西区商工センター5 丁目 3 番 5 号　TEL(082)278-5341(代)　FAX(082)278-5310
福岡営業所　〒816-0088 福岡市博多区板付 5 丁目 18 番 14 号　TEL(092)581-5477(代)　FAX(092)581-6524
相模原工場　〒229-1112 神奈川県相模原市宮下 1 丁目 2 番 38 号

YAMADA AMERICA Inc.　955 E. ALGONQUIN RD., ARLINGTON HEIGHTS, IL 60005, USA　TEL 1-847-631-9200
YAMADA EUROPE B.V　Aquamarijnstraat 50-7554 NS Hengelo(O), The Netherlands　TEL 31-0-74-242-2032
雅玛达(上海)泵业贸易有限公司　上海市浦東新区張江高科技園区松濤路 647 弄 9-11 号 3 号棟 1 室　TEL 86-21-3895-36

200907 900410

☆本製品の仕様は予告なしに変更することがありますのでご了承ください。